熊本エリア・アクセスマップ

九州の南北をつなぐ九州新幹線が通り、各県からのアクセスも抜群。
阿蘇や天草の大自然に囲まれ、豊かな河川が流れる学びの環境に恵まれた熊本です。

熊本桜町バスターミナルより

【車利用】約15分

【熊本都市バス利用】15のりば 約20分
◎子飼渡瀬線（こかいわたるぜせん）バス停「学園大前」下車すぐ
◎大江城西線（おおえじょうせいせん）バス停「学園大前」下車すぐ
◎渡鹿長嶺線（とろくながみねせん）バス停「大江渡鹿」下車 徒歩約5分
◎東西線（とうざいせん）バス停「大江渡鹿」下車 徒歩約5分

【産交バス利用】15のりば 約20分
◎熊本整形外科・託麻原本通経由 バス停「大江渡鹿」下車 徒歩約5分
◎子飼橋・託麻原本通経由 バス停「大江渡鹿」下車 徒歩約5分

九州新幹線・JR鹿児島本線　熊本駅より

【車利用】約15分

【熊本都市バス利用】6のりば白川口（東口）約20分
◎熊学ライナー熊本駅–熊学ノンストップ
　バス停「学園大（キャンパス内）」下車
◎第一環状線（大学病院回り）バス停「大江渡鹿」下車 徒歩約5分
◎中央環状線（大学病院回り）バス停「学園大前」下車すぐ

JR豊肥本線 水前寺駅より

【同駅北口より徒歩】約10分

【同駅北口より熊本都市バス利用】約3分
◎大江城西線 バス停「学園大前」下車すぐ

九州自動車道

【車利用／熊本ICより】約15分

【車利用／益城熊本空港ICより】約20分

熊本市電

◎電停「味噌天神前」下車 徒歩約15分

熊本空港より

【車利用】約30分

【空港バス利用】約30分
◎バス停「味噌天神」下車 徒歩約15分

熊本駅直通のシャトルバス「熊学ライナー」

JR熊本駅～本学間をノンストップで結ぶ
シャトルバスを運行しています。
（運賃片道100円、土日祝は運休）
※大学発は水道町バス停（降車のみ）を経由します。

2023年5月現在の情報です。

KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY
熊本学園大学

大学院事務室

〒862-8680 熊本市中央区大江2-5-1
TEL 096-371-8036
FAX 096-364-5170
https://www.kumagaku.ac.jp/daigakuin/
E-mail:daigakuin@kumagaku.ac.jp

【 学校法人 熊本学園 】
熊本学園大学・大学院
熊本学園大学付属高等学校
熊本学園大学付属中学校
熊本学園大学付属敬愛幼稚園

熊本学園大学
大学院
オリジナルサイト

80th
KUMAMOTO GAKUEN
80th ANNIVERSARY 2022

大学基準協会
2022年度に財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）を申請し、「大学基準に適合している」との認定を受けました。
UNIVERSITY ACCREDITED 2023.4～2030.3

熊本学園大学
大学院

大学院案内 2024

KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL
GUIDEBOOK

グローバル化の進展に対応し、その先を歩む
高度な知識と教養を身につけた人材を育成します。

大学の学部教育で得た知識を基礎とする、より高度な学修の場。
熊本学園大学大学院は1988（昭和63）年に商学研究科を設置以来、経済学、国際文化、社会福祉学、
会計専門職の分野へと門戸を広げ、数多くの高度専門職業人や研究者を輩出してきました。

熊本学園大学 大学院

商学・経済学研究科
※令和6年4月開設予定（設置構想中）

商学・経済学専攻
- ■ 修士課程
- ■ 博士後期課程

国際文化研究科

国際文化専攻
- ■ 修士課程
- ■ 博士後期課程

社会福祉学研究科

社会福祉学専攻
- ■ 修士課程
- ■ 博士後期課程

福祉環境学専攻
- ■ 修士課程

会計専門職研究科

アカウンティング専攻
- ■ 専門職学位課程

※会計専門職研究科については
会計専門職研究科の
パンフレットをご覧ください。

修士課程

履修ガイド

1 専修科目1科目（入学試験の際に希望した専修科目）を自己の専修科目として2年以上履修し、各研究科が定める方法により、30単位以上を修得しなければなりません。

2 専修科目の担当教員を指導教員として、授業科目の選択、修士論文の作成、その他研究全般にわたって指導を受けます。

3 修士論文は、専修科目について提出します。

修了要件

2年以上在学し、かつ所定の単位を修得したうえ、修士論文の審査並びに最終試験に合格する必要があります。合格した方には修士の学位が授与されます。

学位授与までのプロセス

1年次
- ●指導教員による指導のもと、各自の研究テーマを決定します。
- ●修士論文テーマ及び内容に従い、指導体制（主査1名＋副査2名）を確定します。
- ●公開の研究経過報告会（第1回口頭発表）で研究経過報告を行います。

2年次
- ●指導教員による研究指導のもと、研究の具体化、深化をはかります。
- ●公開の中間報告会（第2回口頭発表）で研究経過報告を行い、修士論文の完成を目指します。
- ●修士論文提出
- ●修士論文審査（論文審査及び口述試問）
- ●合否判定

学位授与

博士後期課程

履修ガイド

1 専修科目1科目（入学試験の際に希望した専修科目）を自己の専修科目として3年以上履修し、指導教員の指導を受けることによって12単位を修得しなければなりません。

2 専修科目の担当教員を指導教員として、授業科目の選択、博士論文の作成、その他研究全般にわたって指導を受けます。

3 博士の学位論文は、専修科目について提出します。

修了要件

3年以上在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査並びに最終試験に合格する必要があります。合格した方には博士の学位が授与されます。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績をあげた方については、1年以上在学すれば修了が可能です。

学位授与までのプロセス

1年次
- 春学期
  - ●指導教員による指導のもと、各自の研究テーマを決定します。
  - ●研究計画書（長期計画、年次計画）を作成します。
  - ●博士論文テーマ及び内容に従い、指導体制（主査1名＋副査2名）を確定します。
- 秋学期
  - ●公開の研究経過報告会（第1回口頭発表）で研究経過報告を行います。

2年次
- 春学期
  - ●指導教員による研究指導のもと、研究の具体化、深化をはかります。
- 秋学期
  - ●公開の研究経過報告会（第2回口頭発表）で研究経過報告を行います。
  - ●博士論文テーマの最終決定、論文の完成を目指します。

3年次
- ●論文指導委員会による総合的な学位論文のチェックを受け、最終段階へ向かいます。
- ●論文予備審査の申請を行います。
- ●予備審査の結果が可であれば、博士論文を提出します。
- ●博士論文審査（論文審査及び口述試問）
- ●合否判定

学位授与

シラバス・担当者一覧はホームページで　熊本学園大学大学院　検索　https://www.kumagaku.ac.jp/daigakuin/

CONTENTS

03 熊本学園大学 大学院の特徴
05 商学・経済学研究科 ※令和6年4月開設予定（設置構想中）
11 国際文化研究科
13 社会福祉学研究科
15 支援制度／奨学制度
16 納入金
17 学位／教員免許／学生数・修了者数／キャンパスカレンダー／授業時間
18 施設概要
19 入試概要
20 開設科目一覧

熊本学園大学 大学院の特徴

学びの環境と制度について

Features of Kumamoto Gakuen University Graduate School

Feature 1. 学部教育をさらに深化

大学院は、大学の学部教育で得た知識や技術をより深めたいと希望する方へ提供する高度な学修の場。学部教育で修得した基本的知識や経験を土台とした確かな基礎の上に、更に理論と実践に関する学術分野の総合的な研究・教育を行うことで、高い研究能力と教育的指導力を具えた実践力豊かな人材を養成することが目的です。また、様々な年代・背景の学生が学ぶため、学びの多様性を向上させることもできます。昭和63年に商学研究科を設置して以来、商学、経済学、国際文化、社会福祉学、更には会計専門職の分野へと門戸を広げています。その歴史の中、各方面へ数多くの高度専門職業人や研究者を輩出してきました。昭和17年創立、長い歴史と実績を持つ学校法人熊本学園。その中で大学院は、商学部、経済学部、外国語学部、社会福祉学部の学士課程（学部）の教育と密接に連携し、より深化させた研究と教育を目指しています。

大学の学部教育での知識・技術
▼
理論と実践に関する
学術分野の総合的な研究・教育
▼
より深化させた研究と教育

熊本学園大学の立地と環境

熊本学園大学のある熊本市は九州のほぼ中央部に位置し、新大阪駅から熊本駅までは新幹線で最短約3時間。九州各県へのアクセスもスムーズ＆スピーディーな立地です。また学園大から市街地や観光スポットへも間近、熊本駅からは便利なシャトルバスが出ており、県外からも通学しやすく暮らしやすい環境にあります。

Feature 2. 仕事をしながらでも大学院へ通えます

社会状況が複雑・多様化する現代。職業に就いた社会人であっても、大学での学び直しを希望する方が増えています。その中には大学を卒業して就職した後、現場の具体的な問題に触れて更なる研究の必要性を感じた方も少なくありません。本学には、そのようなニーズに応え、社会人の大学院進学を支援するため、長期履修制度があります。併せて社会人入試を全研究科修士課程で実施することで、仕事をしながら限りある時間内で学ぶ方々を力強くバックアップしています。社会での実務経験のある方々に対して、広く教育の機会を提供することは幅広い人材の受け入れにも繋がり、学びの場も大いに活性化しています。様々なバックボーンを有する方々が、今日まで育んだ自らのキャリアを活かしつつ、高度かつ専門的な職業能力を獲得されんことを期待します。

現場での具体的な課題
社会での経験
＋
大学院での学び
＝
高度で専門的な職業能力の獲得

学びの環境について

平日昼間に限らず、夜間や土曜日などに開講される科目も数多くあり、自分の仕事形態にあわせて履修登録をすることが可能です。また、指導教員や授業担当教員との距離感が近いことも魅力のひとつです。教員とじっくり話をする機会は学部生時代ではなかなかありません。

入学試験について

修士課程に進学する方のうちほぼ半数は社会人入試を利用して入学しています。社会人入試は年3回実施しますので、ご自身の都合にあわせて入試の時期を選択することができます。

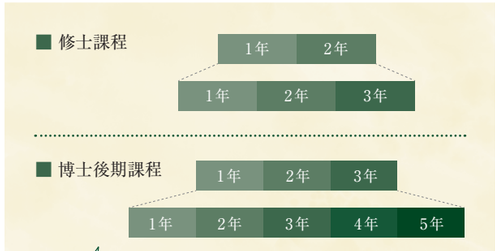
教育訓練給付で経済的な補助が受けられます

本学の修士課程・専門職学位課程は、厚生労働大臣から「一般教育訓練給付の対象講座」として指定を受けています。一定の条件を満たして修了した方は、教育訓練給付金（上限10万円）を受給できます。

※詳細は13ページに記載しています。（長期履修生は、教育訓練給付制度の申請ができません）

ゆとりをもって学べる長期履修制度

長期履修制度とは、仕事を続けながら大学院に通う社会人などに配慮し、修業年限を延長して履修できる制度です。じっくりとゆとりをもって学びたい方におすすめです。



修業年限を修士課程は2年を3年、または博士後期課程は3年を5年にすることで、ゆとりを持った履修計画をたてることができます。授業料も分割されるので、経済的にも負担が軽くなります。

時間割モデル 〈修士課程 社会福祉学研究科 専修科目（精神保健福祉学）長期履修生〉

1年次…■　2年次…●　3年次…★

時限	月	火	水	木	金
6 (18:00〜19:30)	■地域社会専門研究[春学期] ■精神保健福祉学専門研究[秋学期]	■社会福祉学・福祉環境学方法論専門研究[春学期]	■地域福祉論専門研究[春学期]	■福祉臨床と心理学専門研究[春学期] ■環境生命学専門研究[秋学期]	
	●ソーシャルワーク方法論専門研究[秋学期]	●生活環境論専門研究[春学期]		●高齢者福祉論専門研究[春学期] ●社会福祉学専門研究[秋学期]	●健康教育学専門研究[秋学期]
7 (19:40〜21:10)	■精神保健福祉学専門研究演習[通年]	■保育学専門研究[秋学期]			
	●精神保健福祉学専門研究演習[通年]	●障害学専門研究[春学期]		●環境マネジメント論専門研究[秋学期]	●社会政策専門研究[秋学期]
	★精神保健福祉学専門研究演習[通年]				
集中	■社会調査方法論専門研究[春学期土曜日集中] ■福祉環境学フィールドワークⅠ（水俣地域・不知火海、実地調査・ワークショップ）[夏期休業期間]				
	●社会福祉方法論専門研究[夏期休業期間中4日間]				

修了生 VOICE　学部での学びを深めるために大学院へ。修了後も研究活動を継続。

学部生時代に奨学金をテーマにした小論文を作成したのですが、この分野でもっと研究を深めたいと思い、卒業後そのまま大学院へ進学しました。院での授業は受け身ではなく、自ら勉学、研究活動を進めていかなければならず、学部時代とのギャップに戸惑った部分もありました。最初は自己管理がとても大変でしたが、研究の仕方や考え方、資料収集などのスキルが身に付き、就職後にも生きる力となりました。

大学院では、「人口減少社会における公的年金制度の持続可能性に関する一考察」をテーマに研究。この大きなテーマをもっと追究したいと、修了後も研究職を志しました。無事、博士の学位を取得することができ、北海道大学の教員としてさらに研究活動・発表・論文執筆を継続しています。

研究が楽しい、やってみたいと思う人は、大学院に進学して研究者への道を歩んで欲しいです。周囲が就職する中での院への進学は、少し取り残された気持ちにもなるかもしれません。でも、研究者という将来のために必要な過程なので、ぜひ挑戦してほしいです。

経済学研究科 博士後期課程 修了
北海道大学 助教
谷川 琴乃さん

NEW

商学・経済学研究科

Graduate School of Economics and Commerce

令和6年4月開設予定
（設置構想中）
※設置計画は予定であり、内容は今後変更になる可能性があります。

商学・経済学専攻　修士課程　博士後期課程

教育理念・目的

商学・経済学研究科は、経済社会のグローバル化、情報化、高度化及び複雑化の進展に対応するために、商学又は経済学の高度な専門知識に基づいて、膨大な情報・データを分析する能力を備え、ビジネスの各分野で指導的な役割を担う人材の養成、並びに商学、経済学の各専門分野及び地域経済において、創造的な研究活動に従事する研究者の養成を目的とします。

商学・経済学研究科の養成する人材像

地域社会で活躍する人材

商学又は経済学の高度な専門知識に基づいて、膨大な情報・データを分析する能力を備え、ビジネスの各分野で指導的な役割を担う人材の養成を目指します。

知識を生かして社会に還元する創造的な研究者

商学、経済学の各専門分野及び地域経済において、創造的な研究活動に従事する研究者の養成を行います。

入学者受入れの方針［アドミッション・ポリシー］

● 商学分野 修士課程

商学・経済学研究科商学分野では、次に示すような方を幅広く受け入れます。

①商学に関する（大学）学部卒業程度の専門知識を有している方。

②指導教員の指導を受けながら、主体的に研究を遂行できる方。

● 経済学分野 修士課程

商学・経済学研究科経済学分野では、次に示すような方を幅広く受け入れます。

①経済学に関する（大学）学部卒業程度の専門知識を有している方。

②指導教員の指導を受けながら、主体的に研究を遂行できる方。

● 商学分野 博士後期課程

商学・経済学研究科商学分野では、次に示すような方を幅広く受け入れます。

①商学に関する修士課程修了程度の専門知識を有している方。

②指導教員の指導を受けながら、主体的に研究を遂行できる方。

● 経済学分野 博士後期課程

商学・経済学研究科経済学分野では、次に示すような方を幅広く受け入れます。

①経済学に関する修士課程修了程度の専門知識を有している方。

②指導教員の指導を受けながら、主体的に研究を遂行できる方。

商学・経済学研究科 3つのポリシー　一覧はこちら

商学・経済学研究科の特徴

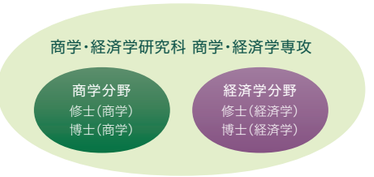
商学研究科と経済学研究科の伝統を引き継ぎ、教育研究力を高めた新たな研究科を設置します。

商学・経済学研究科は、商学又は経済学において高度な専門知識を有し、超スマート社会の推進といった社会的課題や、大手グローバル企業の熊本進出に伴う新たな地域課題の解決に貢献しうる人材の養成を目指し、現行の「商学研究科」「経済学研究科」の2研究科を発展的に継承して新設する研究科です。個々の研究課題や関心に即した幅広い専門知識を身につけることが可能となることはもちろん、より専門的なデータサイエンスについて学ぶことができます。また、学び直しを含め、社会人を広く受け入れることで、ビジネス分野で活躍する地域人材の養成を目指します。

POINT 1

1研究科1専攻の中に商学分野と経済学分野を設定

1研究科1専攻の中で、商学又は経済学に関する専門知識と分析能力を幅広く身につけることができ、商学の学位又は経済学の学位を取得することができます。自身の研究テーマや問題関心に応じ、両分野の基礎科目等から幅広く選択履修できます。



POINT 2

これからの時代に求められるデータサイエンスの素養を身につける

※修士課程

現行の2つの研究科の情報系科目を集約、再編成、拡充し、データサイエンス系基礎科目を両分野共通講義科目として配置します。商学・経済学研究の手法の1つとしてデータサイエンスの素養を身につけることが可能です。　※経済学分野にはデータサイエンス系の応用科目も配置

POINT 3

多様な経歴の入学者を受け入れるフォローアップ演習を設置

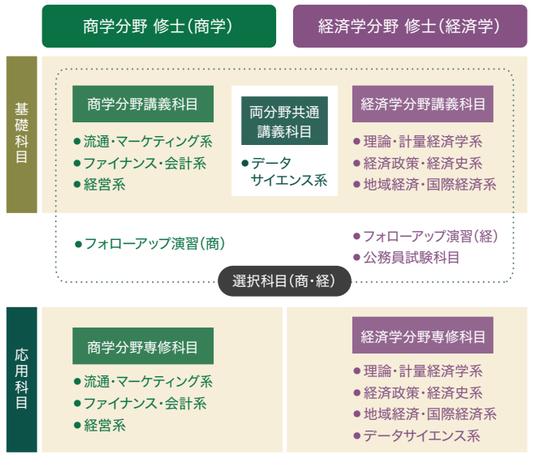
※修士課程

社会人、商学部・経済学部以外の卒業者等が商学、経済学の学究に円滑に取り組めるように、学部レベルの商学及び経済学の知識を教授する「フォローアップ演習」（基礎演習）を設けています。また、公務員試験対応科目も設置しています。

カリキュラム編成のイメージ

■ 修士課程

商学分野、経済学分野で、それぞれの学問分野に関する幅広い知識を身につけるとともに、それぞれの学問分野の中で専門分野についての専門知識を涵養するため、科目を基礎科目（講義）と応用科目（演習）に大きく分けたうえで、専門分野ごとに複数の系にグルーピングして体系的に配置しています。



■ 博士後期課程

博士後期課程では、商学あるいは経済学に関する高度な専門知識と、それぞれの学問分野で専門分野についての高度な研究能力を涵養することを目的とし、それぞれの学問分野で科目を専門分野ごとに複数の系に分けてグルーピングして、体系的に配置しています。

【 研究科長メッセージ 】

新しく誕生する商学・経済学研究科では、データサイエンスの素養を身につけて商学又は経済学を究めることができます。急速に進む超スマート社会の推進に対応できる高度専門知識を身につけて、企業や地域社会の課題解決に挑みたい人を広くお待ちしています。

商学・経済学研究科長
（令和6年4月就任予定）
金子 林太郎 教授

STUDENT VOICE

会計事務所で働きながらの進学。会計の理解を深め、税理士試験も目指す!

商学研究科 商学専攻
修士課程2年
西田 海星さん

熊本学園大学商学部で学ぶ中で、会計についてもっと理解を深めたいと思っていました。税理士試験にも挑戦しており、就職もしたかったため、税理士事務所で働きながら大学院へ進学するという道を選択。修士の学位取得による科目免除を受けられること、さらにカリキュラムや科目が自分に合っていると感じたことから、会計専門職研究科ではなく商学研究科への進学を決めました。大学院のスタッフに相談し、夜の時間帯の授業を多く選択できるようにしたことで、仕事と両立できる状況になったことも大きかったです。

大学院の授業は学部時代よりもとても高度になりましたが、少人数制のため、先生方に質問しやすいのがありがたいです。会計のスペシャリストばかりがそろう先生方は熱心で、いつも濃い時間を過ごすことができています。現在は「人的資本会計」について研究を進めています。修了後は税理士資格を取得し、お客様の悩みにすぐ応えられる税理士を目指しています。

大学院は、興味のある分野をより突き詰める場所。恵まれた環境の中で学べるので、ここで得たことは将来の夢や、今働いている場所で大いに生かせると思います。

学部時代に感じた将来への不安が原動力。より良い社会制度に向けた研究を深めています。

経済学研究科 経済学専攻
修士課程1年
楢原 里紗子さん

公務員を目指して、熊本学園大学の経済学部経済学科に入学しました。しかし、2年生のとき、友人たちと将来について話していて、「老後の不安」が話題の中心となったことに衝撃を受け、「老後の不安」に関する研究を深めたいと心が動きました。また、学部時代にマクロ経済学を研究しており、数理的思考法が自分にピンときたこと、経済学研究科の坂上先生のもとで京都大学との交流をはじめ、国内外の経済学の最先端に触れる機会があることも魅力に感じ、院への進学を決断しました。

大学院での授業はほぼマンツーマンで、先生方の手厚い指導がありがたいです。さらに付属図書館や各自の自習室など学修環境も恵まれていて、研究に集中できる環境が整っています。数理的思考法を生かした「世代重複モデルを用いた賦課方式年金の持続可能性」について研究を行っています。この研究を深めて、あらゆる世代の人が将来の不安を感じないで済むような社会制度の研究者となるのが目標です。

大学院に少しでも興味があったら、所属ゼミの担当教員などに相談すると、思いもしなかった将来のビジョンが見つかるかも知れません。将来の幅が広がる選択肢の1つだと思います。

高度専門職業人を目指す 商学分野 の学生の時間割モデル

1年次…■ 2年次…●

時限	月	火	水	木	金
6 (18:00~19:30)	■経営財務論講義[通年]	■管理会計論講義[通年]	■会社法講義[通年] ●ビジネス倫理[春学期]	■ビジネスリテラシーⅡ[秋学期]	■財務会計論講義[通年]
7 (19:40~21:10)			■ビジネス法基礎演習[春学期]	●財務会計論演習[通年]	■財務会計論演習[通年]

高度専門職業人を目指す 経済学分野 の学生の時間割モデル

1年次…■ 2年次…●

時限	月	火	水	木	金
1		■経済政策論講義[通年]			
2		■産業組織論講義[通年]			●動学マクロ経済学演習[通年]
3	■動学マクロ経済学講義[通年]		■動学マクロ経済学演習[通年]		
4					■労働経済論講義[通年]
5	■ミクロ経済学講義[春学期]		■データサイエンス概論[通年]		

開設科目一覧・演習内容紹介

演習内容の詳細はこちら

商学・経済学研究科 商学・経済学専攻 修士課程

科目区分			科目番号	授業科目	単位
基礎科目	商学分野	流通・マーケティング系	1	商学原理講義	4
			2	流通・マーケティング論講義	4
			3	マーケティング・リサーチ論講義	4
			4	流通政策論講義	4
			5	交通論講義	4
			6	ビジネス特講Ⅰ	2
			7	ビジネス特講Ⅱ	2
			8	流通論基礎講義	2
		ファイナンス・会計系	9	金融論講義	4
			10	証券経済論講義	4
			11	保険論講義	4
			12	経営財務論講義	4
			13	会計学原理講義	4
			14	財務会計論講義	4
			15	管理会計論講義	4
			16	会計監査論講義	4
			17	会計制度論講義	4
		経営系	18	経営史講義	4
			19	労務管理論講義	4
			20	経営管理論講義	4
			21	ビジネスリテラシーⅠ	2
			22	ビジネスリテラシーⅡ	2
			23	ビジネス倫理	2
			24	会社法講義	4
			25	労働法講義	4
			26	会社税法講義	4
	経済学分野	理論・計量経済学系	27	ミクロ経済学講義	2
			28	マクロ経済学講義	2
			29	実証分析講義	2
			30	ゲーム理論講義	4
			31	動学マクロ経済学講義	4
			32	計量経済学講義	4
		経済政策・経済史系	33	経済政策論講義	4
			34	産業組織論講義	4
			35	労働経済論講義	4
			36	環境経済論講義	4
			37	農業政策論講義	4
			38	社会思想史講義	4
			39	財政学講義	4
			40	企業法講義	4
			41	税法講義	4
			42	現代社会問題講義(租税論)	2
		地域経済・国際経済系	43	地域公共政策論講義	4
			44	国際経済論講義	4
			45	開発経済論講義	4
			46	国際関係論講義	4
			47	国際経済法講義	4
	共通	データサイエンス系	48	統計学	2
			49	情報セキュリティ	2
			50	情報基礎講義	2
			51	データサイエンス概論	4
			52	人工知能概論	2
			53	情報処理論講義	4
			54	空間情報解析講義	4
			55	応用システム論講義	4
フォローアップ演習	商学分野		56	流通・マーケティング論基礎演習	2
			57	会計ファイナンス基礎演習	2
			58	経営学基礎演習	2
			59	ビジネス法基礎演習	2
	経済学分野		60	ミクロ経済学基礎演習	1
			61	マクロ経済学基礎演習	1
			62	実証分析基礎演習	1
応用科目	商学分野	流通・マーケティング系	63	商学原理演習	8
			64	流通・マーケティング論演習	8
			65	マーケティング・リサーチ論演習	8
			66	交通論演習	8
		ファイナンス・会計系	67	保険論演習	8
			68	経営財務論演習	8
			69	財務会計論演習	8
		経営系	70	経営史演習	8
			71	労務管理論演習	8
			72	経営管理論演習	8
	経済学分野	理論・計量経済学系	73	ゲーム理論演習	8
			74	動学マクロ経済学演習	8
			75	計量経済学演習	8
		経済政策・経済史系	76	経済政策論演習	8
			77	産業組織論演習	8
			78	労働経済論演習	8
			79	環境経済論演習	8
			80	農業政策論演習	8
			81	社会思想史演習	8
			82	財政学演習	8
		地域経済・国際経済系	83	地域公共政策論演習	8
			84	国際経済論演習	8
			85	開発経済論演習	8
			86	国際関係論演習	8
			87	国際経済法演習	8
		データサイエンス系	88	データ分析応用演習	8
			89	情報処理論演習	8
			90	空間情報解析演習	8
			91	応用システム論演習	8
公務員試験科目	経済学分野		92	ミクロ経済学問題解法	1
			93	マクロ経済学問題解法	1

演習内容紹介

商学原理演習

この演習科目は、商業の抽象的な理論から現実の具体的理論を把握するために中間理論の必要性を提唱する石原武政氏の一連の著作をとおして、商業論をベースとしたまちづくりの理論的研究を行う。

流通・マーケティング論演習

流通は生産、消費、流通技術と密接な関係がある。それゆえ本演習では流通にける商業介在の意義、小売りにおけるマーケティング戦略の重要性に着目する。具体的には流通の役割、商業介在の意義に関して文献・論文を読み進めたうえで、小売りにおける実証研究をもとに検討していく。

マーケティング・リサーチ論演習

この演習科目は、マーケティング・リサーチ論演習とする。授業計画として、理論的知見として、仮説検証型調査において、調査に理論を導入することを学んでいく。ついで調査における技術的操作、またデータ集計、分析にあたって統計学についても学んでいく。

交通論演習

この演習科目は、物流を取り巻く行政の動向や、企業物流のネットワークの核となる物流倉庫や、それらをつなぐ輸配送モードを整理し、ロジスティクスの中心的役割を果たす物流管理手法を主要文献を通じて研究していく。

保険論演習

この演習科目では、近代保険の生成、保険の仕組み、保険の契約形態、保障業務と金融業務、保険の販売チャネル、保険事業の経営形態、保険商品といった保険理論を構成する要素についての理解を深める。

経営財務論演習

この演習科目では、M&A、ストラクチャード・ファイナンス、事業再生、企業価値評価、コーポレート・ガバナンスなどのトピックのなかから修士論文のテーマを選び、そのテーマについて先行研究の検討、新たな視点の発見、その視点による理論的考察や実証分析によって、オリジナリティある修士論文を作成することを目的とする。

財務会計論演習

この演習では、会計ルールや企業の会計行動について研究の対象とする。この中には、外国の会計制度との比較研究なども含まれる。演習の指導方針として、規範的な議論をできるだけ避け、「なぜ・どうして」を探求する姿勢を堅持したい。

経営史演習

この演習科目では、少人数の対話を通じ、経営史学の研究方法を踏まえ、自ら選択した研究テーマを深く追究していくことを支援する。授業計画としては、経営史研究に不可欠な、一方での「グローバル化」および、他方での「地域」の関係について、次第に理解を深めていくように工夫する。

労務管理論演習

この演習科目では、これまで内外のスタンダードの地位にあった日本的労務管理が現在どのような変化を見せているのかを、雇用形態の多様化、女性労働や高年齢者雇用の拡大、賃金の決定基準の変化、労働時間の柔軟化、リモートワークの普及といった点から確認する。

経営管理論演習

履修生の知識範囲と研究興味に合わせて本演習の具体的内容を設定・調整する必要はあるが、日本企業・中国に進出した日系企業・中国企業・グローバル企業の経営活動を研究対象とする修士論文の作成は本演習の基本テーマである。

ゲーム理論演習

この演習科目は、ゲーム理論の主要なモデルとして、(1)完備情報の静学ゲーム、(2)完備情報の動学ゲーム、(3)不完備情報の静学ゲーム、(4)不完備情報の動学ゲーム、さらにゲーム理論の一分野として契約理論(エージェンシー理論)を学修する。

動学マクロ経済学演習

目標：動学的な数理経済モデルを用いて、分権的な社会での最適な状態を達成するための政策について研究を行う。

計量経済学演習

本演習では、主に都市経済や地域経済の分野を対象として、各自の研究テーマ及び問題意識に基づき、実証的アプローチで修士論文を作成することを目的とする。

経済政策論演習

この演習科目では、動学マクロモデルの理解を深め、理論モデルを用いた修士論文の執筆を行う。1年次は、経済政策を分析する上でかかせない経済理論を代表的な論文の輪読を通じて学ぶ。2年次は、1年次に学んだ手法を用いて、各自のテーマに従い修士論文を作成する。

産業組織論演習

本演習は、不完全競争市場における企業の行動および戦略的行動の結果到達する市場の資源配分の様々な状況について、具体的な分析事例の読解を通じて理解を深めることを目的とする。

労働経済論演習

社会の少子高齢化が進行する中、労働経済学が分析対象とする賃金、雇用、教育などについて研究する重要性は増している。本演習では、労働経済学の実証的研究を学修することで、修士論文を作成するために必要となる実証分析の手法を学修する。

環境経済論演習

この演習科目は、環境経済論の手法を用いて重要な環境問題について分析する。1年次は、環境経済論における主要テーマや環境経済論を分析する上で欠かせない手法について学ぶ。2年次は、学んだ手法を用いて、各自のテーマに従い修士論文を作成する。

農業政策論演習

気候変動と社会的格差拡大のもとで、求められる持続的な食料・農業システムはどのようなものであるあるかについて理論的、実証的に研究を進め、最終的に演習生の修士論文としてとりまとめます。

社会思想史演習

この演習科目では、社会思想史分野の著作（原著及びその翻訳書）を一年間もしくはそれ以上の時間をかけて、じっくり講読してゆく。そして、その講読に基づいて思想内容に関する討議を行い、理解を深めることを目的とする。

財政学演習

院生が自ら設定した研究テーマに関する修士論文を完成させることを到達目標とする。そのために、まず租税論を中心とした財政学の知識に基づき、租税論に関する基本的文献を注意深く検討し、その内容についての討論を通じて租税論に関する知識の修得と深化を図る。

地域公共政策論演習

従来の経済学の基本概念である「完全で合理的な人間」のパラダイムに対する不満から生じた「限定合理性」のモデルの意義とその有用性について学び、演習によって実際の問題に適用できるようにする。

国際経済論演習

この演習科目は、国際経済、特に国際貿易論の基礎的な研究と応用分野の分析を行う。国際経済の理論的理解のためには、ミクロ経済学の基礎的知識が必要である。そのため前半では、必要なミクロ経済学の理論を再確認しながら国際経済の理解を深める。

開発経済論演習

この演習科目は、開発経済学の理論を理解した上で、発展途上国が抱える様々な開発問題を探って、経済的・非経済的側面から課題の解決策を検討することを目的とする。

国際関係論演習

本演習では、国際関係論講義と同じく、国際環境政治学を学ぶ上で重要になる自然と人間の関係、産業革命（人新世）以降の環境危機に注目する。「水銀に関する水俣条約」のような具体的な地球環境条約を各自で選び、それぞれの条約成立過程の分析、成立後の国際交渉過程、また、国内の批准過程の分析を行う。

国際経済法演習

当演習の目標は、国際経済法講義科目によって得た知識の定着、基礎の習得、最新の問題状況を俯瞰するとともに、参加学生が自らの問題意識に応じて、国際経済法に関連する研究上の課題を設定することにある。

データ分析応用演習

機械学習の手法を実際のビジネスで生かすことができることを目標とする。演習前半は模擬データを用いて、機械学習による実践的な分析を行う。演習後半はこれらの分析手法をビジネスに生かすコンセプトについて議論する。

情報処理論演習

この演習科目では、情報社会の歴史的な話題やビッグデータや機械学習AIの用途に関する講義を行ったうえで、実際のコンピュータ操作によってビッグデータや機械学習AIの活用方法を身に着けることを目的とする。

空間情報解析演習

この演習科目では、GIS（Geographic Information System、地理情報システム）データおよびソフトウェアを活用して主に地域社会の経済、災害等に関する先行研究についてレビューを行い、GISによるそれらに関する具体的な解決方法を学ぶ。

応用システム論演習

この演習科目は、1）簡単な装置を用いたダイクストラ法の演示実験、2）Web APIを用いた熊本市電の簡易的な乗り換え案内プログラムの作成、3）Webアプリケーション・フレームワークDjango（Pythonで実装）を用いたシンプルなWebアプリケーションの作成、4）ビッグデータ処理技術の端緒として、Python用グラフ・コンピューティング・ライブラリ"Dask"を用いたデータ分析アプリケーションの作成、を通じて、現代社会を支える複雑なコンピュータ・システムの一部を自ら実装できることを到達目標とする。

商学・経済学研究科 商学・経済学専攻 博士後期課程

科目区分		科目番号	授業科目	単位
商学分野	流通・マーケティング系	1	流通・マーケティング論研究指導	4
		2	流通・マーケティング論研究指導演習	12
		3	交通論研究指導	4
		4	交通論研究指導演習	12
		5	マーケティング・リサーチ論研究指導	4
		6	マーケティング・リサーチ論研究指導演習	12
	ファイナンス・会計系	7	保険論研究指導	4
		8	保険論研究指導演習	12
		9	財務管理論研究指導	4
		10	財務管理論研究指導演習	12
		11	会計学原理研究指導	4
		12	会計学原理研究指導演習	12
		13	財務会計論研究指導	4
		14	財務会計論研究指導演習	12
		15	会社税法研究指導	4
		16	会社税法研究指導演習	12
		17	会計制度論研究指導	4
		18	会計制度論研究指導演習	12
		19	管理会計論研究指導	4
		20	管理会計論研究指導演習	12
商学・経済学分野	経営情報系	21	経営史研究指導	4
		22	経営史研究指導演習	12
		23	経営管理論研究指導	4
		24	経営管理論研究指導演習	12
		25	労務管理論研究指導	4
		26	労務管理論研究指導演習	12
経済学分野	理論情報系	27	ゲーム理論研究指導	4
		28	動学マクロ経済学研究指導	4
		29	動学マクロ経済学研究指導演習	12
		30	情報処理論研究指導	4
		31	情報処理論研究指導演習	12
	経済政策経済史系	32	経済政策論研究指導	4
		33	経済政策論研究指導演習	12
		34	農業政策論研究指導	4
		35	労働経済論研究指導	4
		36	環境経済論研究指導	4
		37	地方財政論研究指導	4
	地域経済国際経済系	38	地域経済分析研究指導	4
		39	地域経済分析研究指導演習	12
		40	地域公共政策論研究指導	4
		41	地域公共政策論研究指導演習	12
		42	国際経済論研究指導	4
		43	国際経済論研究指導演習	12
		44	開発経済論研究指導	4
		45	開発経済論研究指導演習	12

演習内容紹介

流通・マーケティング論研究指導演習

本演習では流通・マーケティングに関して自ら研究を進めることができるよう、理論的分析と自論展開が出来るようになることを目標に指導する。

交通論研究指導演習

この演習科目は、物流における行政や荷主企業、物流事業者の視点に立ち、労働力不足や環境配慮の高まり、産業誘致による効果といった環境変化に関する様々な問題や課題に対して、主要文献や関連する官公庁、企業へのヒアリング、アンケート調査を行うことで、現状の把握、課題を抽出し、その解決策を検討、評価する。

マーケティング・リサーチ論研究指導演習

授業計画として、まず企業を取り巻くマーケティング課題について実際のケースを取り上げて検証を行う。さらに、そのようなマーケティング課題をリサーチによってどのように解決していくのかを検証していく。

保険論研究指導演習

この演習科目では、保険制度を歴史的・論理的に解明し、保険を多面的に理解できるようになり、博士論文作成にも反映することができるようになることを到達目標とする。

財務管理論研究指導演習

この演習科目では、財務論だけでなく、会計や会社法等の関連分野の幅広い高度な専門知識を修得するとともに、テーマについて先行研究の検討、新たな視点の発見、その視点による理論的考察や実証分析によって、オリジナリティある博士論文を作成することを目的とする。

会計学原理研究指導演習

この演習科目では、学位（博士）の取得に向けて、各自の問題意識に合わせて、テーマの選定から、資料の収集および分析、さらには博士論文の完成まで、適宜指導します。また、指導期間中に開催される学会や研究会、あるいは私の個人的つながりを通じて、適切なアドバイスを九州内外の研究者に求め、論文のレベルアップを図ることを目的にしています。

財務会計論研究指導演習

財務会計領域における数理モデル分析では、企業の情報開示行動、ディスクロージャーと株式市場の関係、および経営者に対するインセンティブ契約などが数多く取り上げられてきた。演習では、これらの分野の中から受講者自らが選定したテーマに関して、論文執筆を進めるうえでの方向性や課題をともに考え、付加価値のある論文の完成を目指す。

会社税法研究指導演習

法人税法では、課税標準は所得の金額と定めている。そこで、本研究指導は、主としてわが国法人税法における所得計算構造の究明を目的とした研究を行う。

会計制度論研究指導演習

現実の会計制度を研究するうえで必要な経済学・財政学を含む関連分野の文献資料を渉猟し、一貫した論理に基づく検討を行ったうえで、独自の視点からの会計制度に対する提言を含む博士論文を完成する。

管理会計論研究指導演習

本演習は、「経営戦略の実行支援ツールとしての管理会計」を鍵概念とし、管理会計の諸論点について、学術的ののみならず実務的な貢献度の高い博士学位論文を執筆することを目的とする。

経営史研究指導演習

この演習科目では、少人数の対話を通じ、自立した研究者となるための支援を行う。目標は、経営史学の方法を踏まえ、自立した研究者となるべく、課題を探し研究していく力を身につけることである。

経営管理論研究指導演習

授業の到達目標として、経営学分野の基礎理論を正確に理解し、科学的な研究方法（先行文献サーベイ、ケース・スタディ、アンケート調査、統計分析など）を実践できる能力を身に付ける。そのうえ、論理性、科学性、独創性を持ち合わせる研究論文の完成ないし博士学位の取得を目指す。

労務管理論研究指導演習

この演習科目では、バブル崩壊後の不況、IT 革命、グローバリゼーション、少子高齢化の進展といった環境変化によって、近年大々的な変化をみせている日本的労務管理の実像を文献サーベイや資料収集を通して追及することを目的とする。

動学マクロ経済学研究指導演習

この演習では経済成長のメカニズムを研究する。現実の経済問題に対する中長期的予測や政策提言を、動学的競争均衡モデルとシミュレーション分析を用いて行えるようになることを到達目標とする。

情報処理論研究指導演習

この演習科目は、研究を行うための資料収集状況の発表や、論文の構想の発表をしてもらうものである。そして、それらに基づいて、教員の側から指導を行うので、それにこたえる形で論文の準備や論文の作成をしてもらう。これにより、質の高い博士論文を作成できるようになることを、目的とする。

経済政策論研究指導演習

この演習科目では、経済政策論の分野の既存研究の理解と発展的研究、論文執筆の方法を学ぶ。政策分野では政策が現実の経済に与える影響について論ずるため、理論研究のみならず実証研究も同時に行うことが望ましい。経済政策論の分野で博士論文を執筆することを到達目標とする。

地域経済分析研究指導演習

本演習では、主に地域経済学や都市経済学の分野を対象として、各自の研究テーマ及び問題意識に基づき、理論的・実証的アプローチで博士論文を作成することを目的とする。主な研究テーマは、(a)都市・地域経済及び人口構造に関する計量経済モデルを用いた研究、(b)不動産市場の政策分析に関する計量経済モデルを用いた研究、(c)地域間産業連関モデルによる経済波及効果の分析などの地域経済に関する研究テーマを想定している。

地域公共政策論研究指導演習

対面で、博士論文の課題に対する研究成果の発表とその後のディスカッションによる演習を行います。最終的には、演習の成果を学位論文としてまとめます。

国際経済論研究指導演習

この演習科目は、必要な国際経済論の基礎を再確認した後、研究テーマにも基づく文献・資料の収集、報告を行う。博士学位の修得に相応しい高度な専門知識と自ら研究課題を立て研究分析していく力を身につけることを到達目標とする。

開発経済論研究指導演習

この演習科目は、発展途上国が抱える様々な開発問題を検討して、その解決策を考察することを目的とする。3年次では、1年次や2年次で学んだ知識を基に、発展途上国が抱える開発問題やその解決策に関する学位論文を完成する。

国際文化研究科

Graduate School of Area-based Cultural Studies

研究科の詳細を見る

国際文化専攻　修士課程　博士後期課程

開設科目一覧は P21に記載しています。

教育理念･目的

国際文化研究科は、現代のような国際化･グローバル化の時代において、国際文化の諸分野の研究を通じ、異文化理解を促進すると同時に、グローバルな視野と豊かな識見をもち、国際社会で活躍できる高度な専門的知識と視野を持った研究者･専門家、並びに職業人の養成を目的とします。

入学者受入れの方針［アドミッション･ポリシー］

● 修士課程

本学大学院国際文化研究科修士課程においては、日本文化･東アジア文化･欧米文化いずれかの専門領域での基礎的知識（学部卒業程度）と研究に必要な語学力とを有し、以下のことを成し遂げたいと考える方を受け入れます。

①該当文化圏の言語や文化についての領域で、更に深い見識を身につけ、自らの研究を進めたい方。

②該当文化圏の言語や文化についての領域で、自らの専門的研究成果をもって社会に貢献したい方。

なお、入学者選抜については、基礎的知識（学部卒業程度）を有しているかを確認するために筆記試験や書類審査を行い、上記①から②に関する興味･関心等を確認するために面接試験を実施します。

● 博士後期課程

本学大学院国際文化研究科博士後期課程においては、日本文化･東アジア文化･英米文化いずれかの専門領域で、特定の研究課題･研究方法についての知識（修士課程修了程度）と、高度な研究に必要な語学力を有し、以下のことを成し遂げたいと考える方を受け入れます。

①該当文化圏の言語や文化についての領域で、特定の研究課題を更に追及し、研究成果を博士論文にまとめたい方。

②該当文化圏の言語や文化についての領域で、独自性のある研究を行い、その成果をもって社会に貢献したい方。

なお、入学者選抜については、博士後期課程における研究が滞りなく遂行できるかどうかを確認するために筆記試験や修士論文の審査を行い、上記①から②に関する興味･関心等を確認するために面接試験を実施します。

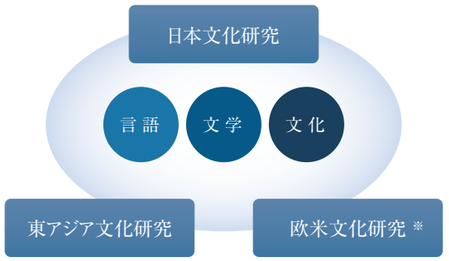
国際文化研究科の特徴

本研究科は、修士課程、博士後期課程ともに、日本文化研究、東アジア文化研究、欧米文化研究を３本の柱に、それぞれの分野において、言語･文学、文化の各方面の研究を国際的な視点から、幅広く、深く進めることができるカリキュラムを用意しています。日本、東アジア、欧米のそれぞれの文化圏について、それぞれの分野における新しい識見を提供し、研究をサポートすることで、国際化時代に求められるグローバルな視野を持ち、高度な専門的知識をも備えた研究者、専門家を育成します。

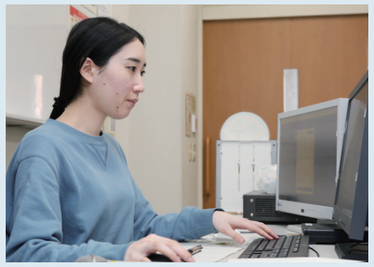
Point 1. 日本文化、東アジア文化、欧米文化にわたる幅広い研究領域に対応している。

Point 2. 各文化領域において、語学･文学･文化･言語教育など、多彩な分野を持つ。

［ 国際文化専攻の学び ］



※博士後期課程では英米文化



国際文化研究科

座談会

教員と博士後期課程、修士課程の学生の3人が「フェアトレードカフェ」に集まり、国際文化研究科での学ぶことのリアルを語り合いました。

国際文化研究科長
申 明直 教授
（専門分野：韓国文学、韓国文化）

国際文化研究科 国際文化専攻
博士後期課程1年
田中 沙季さん

国際文化研究科 国際文化専攻
修士課程2年
松本 新花さん

熊本での多文化共生を支えられる人材の育成を

申 明直 教授（以下：申） 博士後期課程の田中さんと修士課程の松本さん、２人とも熊本学園大学東アジア学科からの進学ですね。

田中 沙季さん（以下：田中） はい、「国と国をつなぐ架け橋になりたい」と客室乗務員を目指していましたが、コロナ禍で航空業界への就職が難しくなり、将来を模索しようと大学院へ進学しました。そこで、もっと韓国文化について深く学びたいと考えるようになり、博士後期課程へと進んでいます。

松本 新花さん（以下：松本） 韓国語を生かす仕事に就きたいと思っていたところ、大学院で日本語教育について専門的に学べることを知りました。そこで、日本語教師として韓国語を生かす仕事に就きたいと決意しました。

申 論文でも、日本語教育をテーマにしていますね。

松本 「韓国人日本語学習者の日本語学習動機付けと、日本語学習における不安や困難」について研究しています。コロナ禍で韓国人の日本語学習動機に変化があったのかなどを調査する内容です。実際に韓国の大田大学校を訪問して、日本語を学習する学生50人にアンケートもお願いしました。

田中 修士の2年間というのは意外にあっという間なので、2年次の春学期は修士論文完成に向けて、大事な時期ですね。私の時は申先生が逐一、次やるべきことを伝えてくれたので、順序よく取り組めたと思います。本当に感謝です。

申 松本さんは、論文も日本語教育に関わることであり、かつ学部の科目等履修生として日本語教員養成課程の修了を目指しているので、まさに一石二鳥、充実した大学院生活を送られていますね。

松本 田中さんは博士後期課程で、どのような研究をされているのですか？

田中 私は博士後期課程ではK-POPのMV分析やファンダム分析を通して、環境問題、社会問題との関係性について研究するつもりです。一方で、学部生の頃から取り組んでいる「フェアトレードカフェ」での活動も続けています。

申 「フェアトレードカフェ」というのは、大学院の教室がある14号館2階にあり、「東アジアに住む人々が共に生きる」をテーマにフェアトレードで仕入れた珈琲などを提供するカフェです。さらに、フェアトレードに関するイベントを行うこともあります。田中さんは立ち上げ直後から委員長として関わっていて、現在はアドバイザーとしてカフェの取りまとめもしてもらっています。

田中 フェアトレードカフェを運営することで、東アジアの文化理解だけではなく、社会問題とも結びつけて深く考えられるようになりました。

申 ２人とも、大学院での学びを将来に生かしたいと考えているのでしょうか？

松本 私は日本語教師として、韓国語スキルも生かしながら国内や海外で働きたいです。高校生の留学生に日本語を教えるボランティアを経験したことで、日本語教師としてのやりがいを見出しました。

田中 私は修了後は、大学教員として韓国語や韓国文化について多くの人に教えたいです。さらに、学部生時代に中国語を学んだことや日本語教員養成課程を修了したことを生かして、多文化共生の実現に向けて働ける人材になりたいと思っています。

申 TSMCやインバウンドの復活など、今、熊本には国際化の大きな波が押し寄せています。しかし、熊本の地域や行政の中で、多文化共生について専門的に取り組める人材はまだ少ないと思います。だからこそ、２人のように本大学院で実用的、かつ深く学ぶことで、グローバル化が進む熊本で活躍できる人材となることができるのではないかと思います。

松本さんの時間割 〈修士課程〉

1年次…■　2年次…●

時限	月	火	水	木	金
1					
2	■日本語教育特殊研究［通年］	■東アジア（中国）言語文化特殊研究Ⅲ［通年］			■東アジア（韓国・朝鮮）言語文化特殊研究Ⅳ［通年］ ●日本語教育特殊研究演習［通年］
3	■東アジア（韓国・朝鮮）地域文化特殊研究Ⅱ［通年］				■日本語教育特殊研究演習［通年］
4		■東アジア（韓国・朝鮮）言語文化特殊研究Ⅴ［通年］			
5		■東アジア（韓国・朝鮮）言語文化特殊研究Ⅶ［通年］			

就職DATA

主な進学･就職先の実績（現職継続者含む）

進学 熊本学園大学大学院国際文化研究科博士後期課程、熊本学園大学大学院国際文化研究科研究生（修士課程･博士後期課程）

就職 熊本県高等学校教員（英語）、専門学校東京国際ビジネスカレッジ、専修大学玉名高等学校（教員）、沖縄国際大学（教員）、崇城大学（非常勤講師）　　、株式会社鶴屋百貨店

社会福祉学研究科

Graduate School of Social Welfare

研究科の詳細を見る

社会福祉学専攻　修士課程　博士後期課程　／　福祉環境学専攻 修士課程

開設科目一覧は P22に記載しています。

教育理念・目的

社会福祉学研究科は、現代の多様化、高度化する社会福祉や社会保障の課題に応えるべく、人権保障を基礎にして、社会福祉学や福祉環境学領域における実践、並びに社会福祉や社会保障政策の理論と歴史を研究することを通して、社会福祉領域の指導者として活躍しうる高度専門職業人、並びに広い視野を有する研究者を養成することを目的とします。

入学者受入れの方針［アドミッション・ポリシー］

● 社会福祉学専攻 修士課程

社会福祉学に関する基礎的知識（学部卒業程度）を有し、以下のいずれかに該当する方を受け入れます。

①大学において社会福祉学を学び、更に高度な専門的能力の修得を目指す方。

②社会福祉学領域における研究を活かし、自らの研究能力、職業能力を高めようとする方。

③すでに社会福祉分野で職業人として活躍しながら更なる能力向上を目指す方。

④社会福祉以外の分野で職業人として活躍しており、社会福祉学を研究することにより、更に新たな職業領域を開拓しようとする方。

⑤社会における福祉や環境に関する諸課題に関心を有し、自らの力で課題解決に取り組む姿勢と意欲を持つ方。

● 福祉環境学専攻 修士課程

社会福祉学または福祉環境学に関する基礎的知識（学部卒業程度）を有し、以下のいずれかに該当する方を受け入れます。

①大学において福祉環境学を学び、更に高度な専門的能力の修得を目指す方。

②福祉環境学領域における研究を活かし、自らの研究能力、職業能力を高めようとする方。

③すでに職業人として活躍しており、福祉環境学を研究することにより、更に新たな職業領域を開拓しようとする方。

④国際社会における福祉や環境に関する諸課題に関心を有し、自らの力で課題解決に取り組む姿勢と意欲を持つ方。

● 社会福祉学専攻 博士後期課程

本学大学院社会福祉学研究科博士後期課程においては、入学前に社会福祉学に関する専門的学識を有し、以下のいずれかの高度で専門的な研究意欲のある方を受け入れます。

①社会福祉に関する研究を蓄積してきた方で、更に社会福祉学のより高度で専門性の高い調査方法や政策・理論を修得する意欲のある方。

②研究者として、社会福祉学の近接科目を専門としつつも、社会福祉学（社会政策・ソーシャルワーク）の高度で専門的研究に意欲のある方。

③専門職の職業人として地域社会に寄与しているが、更に社会福祉学に関する調査・研究を究めてより専門性の高い領域で地域社会に貢献したい方。

なお、入学者選抜については、博士後期課程における研究が滞りなく遂行できるかどうかを確認するために筆記試験や修士論文の審査を行い、上記①から③に関する興味・関心等を確認するために面接試験を実施します。

社会福祉学研究科の特徴

多様な研究テーマに対応できる体制

各自が綿密な研究計画書を作成し、それをもとに研究指導体制を整えていくことから、学位取得の道はスタートします。社会福祉学における理論と歴史、制度と政策、また福祉環境学領域の地域と環境について研究を進めます。第一線で活躍する指導教員のきめ細かい指導と、社会福祉学・福祉環境学領域の多様な選択科目を履修することにより、広い教養と深い学識を身につけることができます。修了生は研究者（大学・短大等の教員）や社会福祉実践の指導者（施設長・センター長等）として活躍しています。

社会福祉学研究科

座談会

働きながら大学院へ通う修士課程の２人と研究科長がそれぞれの仕事や研究への思い、大学院進学による自身の変化を語り合いました。

社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程2年（保育学）
山村 慧さん

社会福祉学研究科長
西﨑 緑 教授
（専門分野：社会福祉学）

社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程2年（障害学）
片山 祥子さん

現場と研究を往還することで社会福祉の学びは、より深まる

西﨑 緑 教授（以下：西﨑） おふたりはそれぞれ、異なる背景を持ちながら本大学院に通学されていますね。

山村 慧さん（以下：山村） 私はもともと、短大で保育士・幼稚園教諭資格を取得して、社会福祉士を目指すために熊本学園大学社会福祉学部に3年次編入してきました。そこで学ぶ中で、子どもを取り巻く社会問題が多種多様で、特に児童虐待の件数が年々、過去最多を更新している現状を知りました。その支援制度などの研究をするために院に進学しました。

片山 祥子さん（以下：片山） 私は佐賀県の大学で社会福祉士資格を取得して、高齢者施設のソーシャルワーカーとして働き始めました。でも現場に出ると、社会や組織のルールに組み込まれ、施設の経営面に左右されてソーシャルワーカーという専門職はどうあるべきなのか、ジレンマを抱えることに…。このもやもやした思いをどうにかしたいと、大学院で学ぶことを決めました。

西﨑 片山さんは佐賀県から通っているんですよね？

片山 はい。大学院の入試個別相談で私の思いに深く共感してくださり、ここで学びたいと決断しました。1年次は平日夜間の授業に大学院へ毎日通い、週末は佐賀県でケアワーカーとして働く、という日々を送りました。

山村 私も日中は精神障害者のグループホームでアルバイトをしながら、夜に大学院に通っています。専攻の保育学とは直接関わっていない職場ですが、自分の中にたくさんの視点が生まれて、発見も多いです。

西﨑 本大学院の、特に社会福祉学専攻は社会人が通うことを想定して夜間に講義が開かれているので、２人ともその環境を活用していただいて、嬉しいです。

山村 社会福祉学専攻独特の雰囲気なのかもしれませんが、少人数制なので授業中も意見交換がしやすかったり、先生方と話しやすい朗らかな雰囲気がいいな、と思います。

片山 確かに！ 気構えることなく、素直に自分の思いを言える雰囲気です。素直な思いを言いすぎて活発な議論になることもありますが、そこで自分の矛盾に気付けることも多いです。

西﨑 授業で学生が1度も発言しないということはないかもしれないですね。講義でも演習のような雰囲気だと思います。先生も皆ユニークな人ばかりですし。

山村・片山 本当に。いろんな話が聞けて、とても楽しいです。

西﨑 大学院は様々な考えに触れられるチャンスがある場所ですね。

片山 私は大学院で学びながら週末を中心に働く、という日々を過ごしていますが、学問と現場のギャップを毎週感じることの繰り返しです。でも、そのギャップに気づくことこそが研究において大切なことでもあります。これから他のソーシャルワーカーともっと話をして、勉強会や意見交換などもできたらと思います。

山村 私は大学院の学びや研究を生かして、保育の現場で働きたい学生に子どもの社会的養護の必要性について教えられる教員になりたいと思っています。それが、児童虐待や子どもの困難を減らすことに貢献できると思うので。

西﨑 社会福祉は実践の学問で、実践と理論の両方がないと成り立ちません。でも、ソーシャルワーカーとして働いていると、目の前の問題に追われて社会的構造の問題やその分析までなかなか思い至らないものです。２人のように、働きながら大学院に進学し、現場と研究を往還することで、両方を深めることにつながると思います。

山村さんの時間割 〈修士課程〉

1年次…■　2年次…●

時限	月	火	水	木	金
6（18:00～19:30）	■保育学専門研究［春学期］ ■福祉臨床と心理学専門研究［秋学期］	■社会福祉学・福祉環境学方法論専門研究［春学期］ ■ソーシャルワーク方法論専門研究［秋学期］	■高齢者福祉論専門研究［秋学期］ ■地域福祉論専門研究［春学期］ ●保育学専門研究演習［通年］	■障害学専門研究［春学期］	■社会福祉学専門研究［秋学期］ ■障害児者福祉論専門研究［春学期］ ●精神保健福祉学専門研究［春学期］
7（19:40～21:10）	■保育学専門研究演習［通年］		●スポーツ社会学専門研究［秋学期］		
集中	■社会福祉方法論専門研究				

就職DATA

主な進学・就職先の実績（現職継続者含む）

進学 熊本学園大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程、熊本学園大学大学院社会福祉学研究科研究生（修士課程・博士後期課程）

就職 済生会みすみ病院、社会福祉法人くまもと障害者労働センター、熊本第一病院、本田福祉事務所、熊本大学医学部附属病院、社会福祉法人熊本県コロニー協会、福岡県立大学附属研究所不登校・ひきこもりサポートセンター、活水女子大学（教員）、熊本市立出水南中学校、熊本YMCA学院、熊本学園大学（教員）、熊本保健科学大学（教員）、九州看護福祉大学（教員）、京都橘大学（教員）、品川区役所、熊本県（社会福祉職）、日本郵便株式会社、徳山大学（教員）、熊本駅前看護リハビリテーション学院（教員）、社会福祉法人わくわく、一般社団法人未来の種、小さな森の保育園、上天草市

支援制度

学会活動等援助金制度

院生の学会活動を奨励し、学術研究の促進を図るため、学会等での研究発表や学会誌に論文等を掲載する際に、必要な経費の一部を援助する制度です。

ティーチング・アシスタント制度

学部や大学院教育におけるきめ細かい指導の実現と、院生が将来教員や研究者になるためのトレーニングの機会を提供することを目的として、ティーチング・アシスタント制度を設けており、毎年多くの院生が活躍しています。この制度を通じて、豊富な研究業績や実務経験を持った教員のもとで教育や研究手法を学び取り、また一定の報酬を得ることで院生への経済的支援の一役を担っています。

文献等複写援助

文献複写、授業用レジュメ作成などのため、学内で使えるコピーポイント（年間1,500枚まで）を付与します。

リサーチ・アシスタント制度

大学院研究科の学術研究の充実、研究プロジェクトの効果的推進を図るとともに、研究補助業務を通して若手研究者の育成を図るため、リサーチ・アシスタント制度を設けています。

しょうがい学生支援

しょうがいのある学生に対し他の学生と同様に学べるよう学習支援を実施しています。

社会人学生への支援制度

● 教育方法の特例

全研究科において、社会人のリカレント教育に対する社会的な要請に応えるため、大学院設置基準第14条に定められている教育方法の特例を導入して、社会人・有職者が受講しやすいよう平日夜間、土曜日、特定の時間・時期（集中講義等）に授業を開講するなどカリキュラム編成や研究指導面について組織的・体系的な整備を図っています。

● 教育訓練給付制度

「教育訓練給付制度」は、働く方の能力開発、キャリアアップを支援するため、厚生労働大臣が指定する教育訓練講座を受講し、一定の要件を満たした方に対して、受講費用の一部を給付する制度です。本学の修士課程・専門職学位課程は、厚生労働大臣から「一般教育訓練給付の対象講座」として指定を受けています。一定の条件を満たして修了した方は、教育訓練給付金（上限10万円）を受給できます。

■ **支 給 額**： 受講者本人が支払った受講費用の20%（上限10万円）
■ **支給要件**： 【初めて利用する方】
雇用保険加入期間が通算1年以上
【以前利用したことがある方】
前回利用開始日から雇用保険加入期間が通算3年以上

※長期履修生は、教育訓練給付制度の申請ができません。

奨学制度

修学を経済的側面から支援するものとして奨学制度があります。本学で取り扱っている奨学金は、大学独自の奨学金、日本学生支援機構奨学金、地方自治体・民間育英団体等の奨学金、また私費外国人留学生のための奨学金などがあります。

〈本学独自の奨学金〉

	対象	種別	交付額	資格・条件	募集期間等
肥後銀行国際交流奨学基金	本学学生	給付	年額36万円	経済的な援助を必要とする正規の私費外国人留学生及び海外へ長期留学する日本人学生	6月頃
田島司郎国際奨学基金	本学学生	給付	年額24万円 ※半年の場合は12万円	正規の私費外国人留学生、及び長期（半年または1年）留学する本学学生	10月～1月頃
同窓会志文会奨学金	本学学生 （外国人留学生は除く）	給付	授業料（半期）相当額	自然災害、その他家庭の経済状況が急変し、修学が困難と認められる事態が発生した者（1号奨学生）	随時
			年額30万円	本学から外国へ1年以上私費留学する者（3号奨学生）	随時

納入金（参考：2023年度）

（単位：円）

	学年・期別	種別	一般納入金 入学金	授業料	施設費	計	委託徴収金 同窓会費	合　計	納入期限
修士課程	第1年次		100,000			100,000		100,000	入学手続指定日時
		1期		285,000	25,000	310,000		310,000	
		2期		285,000	25,000	310,000	20,000	330,000	9月28日
		合計	100,000	570,000	50,000	720,000	20,000	740,000	
	第2年次	1期		285,000	25,000	310,000		310,000	4月28日
		2期		285,000	25,000	310,000		310,000	9月28日
		合計		570,000	50,000	620,000		620,000	
修士課程〈長期履修生用〉	第1年次		100,000			100,000		100,000	入学手続指定日時
		1期		190,000	25,000	215,000		215,000	
		2期		190,000	25,000	215,000	20,000	235,000	9月28日
		合計	100,000	380,000	50,000	530,000	20,000	550,000	
	第2年次	1期		190,000	25,000	215,000		215,000	4月28日
		2期		190,000	25,000	215,000		215,000	9月28日
		合計		380,000	50,000	430,000		430,000	
	第3年次	1期		190,000	25,000	215,000		215,000	4月28日
		2期		190,000	25,000	215,000		215,000	9月28日
		合計		380,000	50,000	430,000		430,000	

（単位：円）

	学年・期別	種別	一般納入金 入学金	授業料	施設費	計	委託徴収金 同窓会費	合　計	納入期限
博士後期課程	第1年次		100,000			100,000		100,000	入学手続指定日時
		1期		285,000	25,000	310,000		310,000	
		2期		285,000	25,000	310,000	20,000	330,000	9月28日
		合計	100,000	570,000	50,000	720,000	20,000	740,000	
	第2年次	1期		285,000	25,000	310,000		310,000	4月28日
		2期		285,000	25,000	310,000		310,000	9月28日
		合計		570,000	50,000	620,000		620,000	
	第3年次	1期		285,000	25,000	310,000		310,000	4月28日
		2期		285,000	25,000	310,000		310,000	9月28日
		合計		570,000	50,000	620,000		620,000	
博士後期課程〈長期履修生用〉	第1年次		100,000			100,000		100,000	入学手続指定日時
		1期		171,000	25,000	196,000		196,000	
		2期		171,000	25,000	196,000	20,000	216,000	9月28日
		合計	100,000	342,000	50,000	492,000	20,000	512,000	
	第2年次	1期		171,000	25,000	196,000		196,000	4月28日
		2期		171,000	25,000	196,000		196,000	9月28日
		合計		342,000	50,000	392,000		392,000	
	第3年次	1期		171,000	25,000	196,000		196,000	4月28日
		2期		171,000	25,000	196,000		196,000	9月28日
		合計		342,000	50,000	392,000		392,000	
	第4年次	1期		171,000	25,000	196,000		196,000	4月28日
		2期		171,000	25,000	196,000		196,000	9月28日
		合計		342,000	50,000	392,000		392,000	
	第5年次	1期		171,000	25,000	196,000		196,000	4月28日
		2期		171,000	25,000	196,000		196,000	9月28日
		合計		342,000	50,000	392,000		392,000	

※2024年度入学生の納入金額は変更となる場合があります。※入学金及び同窓会費については、本学学部卒業生・本学大学院修了者は免除します。
※納入期限日が休日あるいは土曜日の場合は、その翌日または翌々日とします。

授与する学位

研究科・専攻	学位名称	
	修士課程	博士後期課程
商学・経済学研究科 商学・経済学専攻	修士（商学）、修士（経済学）	博士（商学）、博士（経済学）
国際文化研究科 国際文化専攻	修士（文学）	博士（文学）
社会福祉学研究科 社会福祉学専攻	修士（社会福祉学）	博士（社会福祉学）
社会福祉学研究科 福祉環境学専攻	修士（福祉環境学）	—

免許（専修免許状）［修士課程］

中学校教諭一種免許状または高等学校教諭一種免許状を有する方で、「大学が独自に設定する科目」から本学所定の単位を修得したうえ、修士の学位を得た場合、中学校教諭・高等学校教諭の専修免許状を取得することができます。

研究科・専攻	免許教科の種類
国際文化研究科 国際文化専攻	中学校教諭専修免許状（英語）（中国語）（韓国語）、高等学校教諭専修免許状（英語）（中国語）（韓国語）
社会福祉学研究科 社会福祉学専攻	高等学校教諭専修免許状（福祉）
社会福祉学研究科 福祉環境学専攻	中学校教諭専修免許状（社会）、高等学校教諭専修免許状（公民）

学生数・修了者数

研究科・専攻	課程	2023年度				2022年度			
		入学定員	入学者	収容定員	在籍者数	修了者数（単位取得満期退学者含む）	就職者数（現職継続含む）	進学者数	学位取得者累計
国際文化研究科 国際文化専攻	修士課程	5	3	10	8	2	1	1	69
	博士後期課程	3	2	9	2	0	0	0	9
社会福祉学研究科 社会福祉学専攻	修士課程	5	1	10	11	2	2	0	138
	博士後期課程	3	0	9	7	0	0	0	28
社会福祉学研究科 福祉環境学専攻	修士課程	5	2	10	3	0	0	0	28

キャンパスカレンダー

- **4月**
  - 入学式・新入生オリエンテーション
  - 春学期授業開始
- **5月**
  - 創立記念日
- **6月**
  - 博士後期課程学位論文提出期限（社会福祉学研究科、9月修了）
- **7月**
  - 修士課程学位論文提出期限（9月修了）
  - 博士後期課程学位論文提出期限（商学・経済学・国際文化研究科、9月修了）
  - 春学期授業終了
- **8月**
  - 学位論文審査および最終試験
  - 夏期休業
- **9月**
  - 秋学期授業開始
  - 9月期学位記授与式
- **12月**
  - 博士後期課程学位論文提出期限（3月修了）
  - 冬期休業
- **1月**
  - 秋学期授業再開
  - 修士課程学位論文提出期限（3月修了）
  - 秋学期授業終了
  - 春期休業（〜3月末）
- **2月**
  - 学位論文審査および最終試験
- **3月**
  - 学位記授与式

授業時間

授業については、月曜日から土曜日まで次の時間帯で行われています。
自分のライフスタイルにあわせて時間割を編成することができます。

1時限	9:00 〜 10:30
2時限	10:40 〜 12:10
3時限	13:00 〜 14:30
4時限	14:40 〜 16:10
5時限	16:20 〜 17:50
6時限	18:00 〜 19:30
7時限	19:40 〜 21:10

施設概要

充実した教育・研究環境の中で、高度な研究を支えています。

熊本学園大学正門南側に位置する14号館（60周年記念会館）は、新しい時代の要求に対応できる機能を持つ複合施設です。大学院関連施設は、この14号館3階・5階・6階に配置され、静かで快適な環境のなか、院生の研究活動をサポートしています。

自習室

14号館6階には、院生の学修の場として自習室を備えています。机・書棚・ロッカー等を設置しており、個人ごとにスペースが区切られ、勉強に集中できる環境にも配慮しています。

利用時間　月〜土 9:00〜23:00／日・祝 9:00〜21:00

パソコン室

14号館3階・6階には院生専用のパソコン室を設置しています。授業や論文作成のための資料収集に活用したり、インターネット検索・電子メールで情報交換も可能です。

利用時間　月〜土 9:00〜23:00／日・祝 9:00〜21:00

図書館

地上4階地下2階の図書館はキャンパスのほぼ中央に位置し、学習図書館、研究図書館、保存図書館としての機能を持ち、開架図書20万冊、965席の閲覧室のある静かな環境の中、毎日多くの学生、卒業生や一般市民が訪れています。現在、蔵書約92万冊、学術雑誌約8,200タイトル、視聴覚資料約16,000点などを所蔵し、西日本有数の規模と内容を誇っています。
開学以来、学部や学科、大学院の増設に合わせて専門資料や図書館機能の充実に努めてきました。これまで蓄積されてきた資料や情報の提供はもとより、最新の学術情報を迅速・的確に提供できるレファレンス体制も整えています。より多くの利用者にこれらの資料や機能を活用してもらうために、年間約320日開館しており、授業期間だけでなく長期休業期間も存分に利用することができます。

利用時間　【授業期間】月〜土 8:50〜22:00／日 10:00〜17:00
【休業期間】月〜土 8:50〜21:00／日 10:00〜16:00 ※1Fのみ

研究所・研究センター

産業経営研究所

「産業・経済およびこれに関連している諸事項の調査研究を行い、地域の産業経営の発展向上に寄与する」ことを目的に、1959年4月に設立。以来、地域経済、産業および企業経営に関する調査・研究ならびにその助成を行ってきました。また国、地方、企業の各種統計・資料、大学・研究機関の機関誌などの資料収集に努めています。調査研究の成果は、『調査研究報告』、所報『産業経営研究』等として発表。さらに最近は、産学連携事業にも注力し、地域経済の発展に寄与しています。

海外事情研究所

「中南米事情研究所」を前身として、1972年4月に開設し、専門の研究に取り組み、成果を所報『海外事情研究』や『研究叢書』で発表しています。また所員への海外調査研究の援助、稀少価値のある文献の収集を行い、研究活動の充実に努めています。海外交流については、中国の深圳大学、オーストリアのウィーン大学、韓国の全南大学校の各研究所と交流協定を締結。活発な学術交流を行っています。また地域貢献の一環として一般の方も参加できる国際シンポジウム・研究会等を開催しています。

社会福祉研究所

「社会福祉の科学的研究とその発展」「地域社会への貢献」を目的に1966年5月に設立。刊行物として『社会福祉研究所報』、『社会福祉叢書』、『くまもとわたしたちの福祉』などがあります。また専門家を招き現代の社会福祉問題を取り上げる公開研究会の開催、2019年度からは社会福祉関連の経営者団体や社会福祉士会等の職能団体と連携について検討し、福祉関連施設等に従事する卒業生と連携をとりながら、新たに地域貢献事業に取り組むなど、地域交流にも努めています。

水俣学研究センター

水俣病事件の教訓を将来に生かすことを目的に、「学問領域の壁を越える」「オープンな研究体制の構築」「現地に学び現地に返す」「国際的視野での研究・調査」「系統的な人材の育成に寄与する」ために、2005年4月に設置。同年8月には、水俣学現地研究センターが水俣市に設置されました。調査研究・教育・地域貢献・国際交流などを有機的に関連付けた活動を展開しています。また、水俣学ブックレットや資料叢書の刊行、公開講座の実施、水俣病関連資料の収集・整理・データベース化を進め、ホームページで公開しています。

入試概要

本学大学院では、一般入学試験及び外国人留学生入学試験のほか、社会人を対象とした社会人入学試験、現職の中学・高校教員（大学卒業者）を対象とした社会人特別推薦入学試験、また本学学部からの推薦入学試験・飛び級入学試験等があります。

詳細につきましては入試募集要項及びホームページ（https://www.kumagaku.ac.jp/daigakuin/）をご覧ください。

■ 学生募集概要（2024年度）

【 修士課程 】

研究科・専攻	9月	11月	2月	入試種別	募集人員	専門科目	小論文	外国語（英語）	面接	書類審査
商学・経済学研究科 商学・経済学専攻	◎	◎	◎	一般入試	4名	●		●	●	●
	◎	◎	◎	外国人留学生入試		●			●	●
	◎	◎	◎	社会人入試			●		●	●
		◎	◎	飛び級入試		●		●	●	●
		◎	◎	推薦入試　本学商学部生 経済学部生対象					●	●
国際文化研究科 国際文化専攻	◎	◎	◎	一般・外国人留学生入試	5名	●		● 注1	●	●
	◎	◎	◎	社会人入試		●			●	●
	◎	◎	◎	推薦入試　本学外国語学部生対象					●	●
	◎	◎	◎	社会人特別推薦入試					●	●
社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 社会福祉学研究科 福祉環境学専攻	◎	◎	◎	一般入試	各5名	●			●	●
	◎	◎	◎	外国人留学生入試		●			●	●
	◎	◎	◎	社会人入試		●			●	●
		◎	◎	推薦入試　本学社会福祉学部生対象					●	●

注1）国際文化研究科一般入試・外国人留学生入試の外国語受験においては、専修科目に応じて指定された外国語科目より1外国語を選択する。

	試験日	出願期間	合格発表	入学手続締切	試験会場
9月入試	2023年9月24日（日）	8月28日（月）～ 9月4日（月）	9月29日（金）10：00	第1回 10月13日（金） 第2回 2024年3月1日（金）	本 学
11月入試	2023年11月12日（日）	10月12日（木）～ 10月19日（木）	11月17日（金）10：00	第1回 12月1日（金） 第2回 2024年3月1日（金）	本 学
2月入試	2024年2月11日（日）	1月11日（木）～ 1月18日（木）	2月16日（金）10：00	2024年3月1日（金）	本 学

【 博士後期課程 】

研究科・専攻	募集人員	選考方法
商学・経済学研究科 商学・経済学専攻	2名	● 筆記試験（英語） ● 口述試験 ● 書類審査および論文審査
国際文化研究科 国際文化専攻	3名	● 筆記試験（外国語）※専修科目に応じて指定された外国語科目より選択 ● 口述試験 ● 書類審査および論文審査
社会福祉学研究科 社会福祉学専攻	3名	● 筆記試験（専修科目に関する論述試験） ● 口述試験 ● 書類審査および論文審査

	試験日	出願期間	合格発表	入学手続締切	試験会場
9月入試	2023年9月24日（日）	8月28日（月）～ 9月4日（月）	9月29日（金）10：00	第1回 10月13日（金） 第2回 2024年3月1日（金）	本 学
2月入試	2024年2月11日（日）	1月11日（木）～ 1月18日（木）	2月16日（金）10：00	2024年3月1日（金）	本 学

科目等履修生制度

大学院科目等履修生制度は、本大学院に開設されている、特定の授業科目について履修し、単位の認定を受ける制度です。大学を卒業した人であれば、どなたでも出願可能です。履修できる科目や出願の時期等については、大学院事務室にお問い合わせください。

研究生制度

本学大学院修士課程、博士後期課程を修了、または博士後期課程を3年以上在学し退学した人が、研究を継続し、専任教員から指導を受けることのできる制度です。

入試個別相談開催のお知らせ

対面やオンラインで、大学の教員に研究活動や入試制度などについて相談してみましょう！ ※教員の指名も可能です。

日程　年間を通じて随時受付　　時間　11:00～21:00

※土日祝除く ※参加には事前予約が必要です。詳しくは本学ホームページをご確認ください。

国際文化研究科 開設科目一覧

シラバスの検索はこちら

国際文化研究科 国際文化専攻 修士課程

科目区分	科目番号	授業科目	単位
日本文化研究	1	古典文学特殊研究	4
	2	古典文学特殊研究演習	8
	3	近代文学特殊研究Ⅰ	4
	4	近代文学特殊研究Ⅰ演習	8
	5	近代文学特殊研究Ⅱ	4
	6	近代文学特殊研究Ⅱ演習	8
	7	言語処理論特殊研究	4
	8	言語処理論特殊研究演習	8
	9	日本史特殊研究	4
	10	日本語教育特殊研究	4
	11	日本語教育特殊研究演習	8
東アジア文化研究	12	東アジア(中国)言語文化特殊研究Ⅰ	4
	13	東アジア(中国)言語文化特殊研究Ⅰ演習	8
	14	東アジア(中国)言語文化特殊研究Ⅱ	4
	15	東アジア(中国)言語文化特殊研究Ⅱ演習	8
	16	東アジア(中国)言語文化特殊研究Ⅲ	4
	17	東アジア(中国)言語文化特殊研究Ⅲ演習	8
	18	東アジア(韓国・朝鮮)言語文化特殊研究Ⅳ	4
	19	東アジア(韓国・朝鮮)言語文化特殊研究Ⅳ演習	8
	20	東アジア(韓国・朝鮮)言語文化特殊研究Ⅴ	4
	21	東アジア(韓国・朝鮮)言語文化特殊研究Ⅴ演習	8
	22	東アジア(中国)言語文化特殊研究Ⅵ	4
	23	東アジア(中国)言語文化特殊研究Ⅵ演習	8
	24	東アジア(韓国・朝鮮)言語文化特殊研究Ⅶ	4
	25	東アジア(韓国・朝鮮)言語文化特殊研究Ⅶ演習	8
	26	東アジア(中国)地域文化特殊研究Ⅰ	4
	27	東アジア(中国)地域文化特殊研究Ⅰ演習	8
	28	東アジア(韓国・朝鮮)地域文化特殊研究Ⅱ	4
	29	東アジア(韓国・朝鮮)地域文化特殊研究Ⅱ演習	8
	30	東アジア地域言語文化総合演習	2
欧米文化研究	31	イギリス文学特殊研究	4
	32	イギリス文学特殊研究演習	8
	33	アメリカ文学特殊研究Ⅰ	4
	34	アメリカ文学特殊研究Ⅰ演習	8
	35	アメリカ文学特殊研究Ⅱ	4
	36	アメリカ文学特殊研究Ⅱ演習	8
	37	英語学特殊研究Ⅰ(英語教育評価論)	4
	38	英語学特殊研究Ⅰ(英語教育評価論)演習	8
	39	英語学特殊研究Ⅱ(外国語習得論)	4
	40	英語学特殊研究Ⅱ(外国語習得論)演習	8
	41	英語学特殊研究Ⅲ(文体論)	4
	42	英語学特殊研究Ⅲ(文体論)演習	8
	43	英語学特殊研究Ⅳ(応用言語学)	4
	44	英語学特殊研究Ⅳ(応用言語学)演習	8
	45	英語コミュニケーション論特殊研究	4
	46	英語コミュニケーション論特殊研究演習	8
	47	フランス文学特殊研究(フランス詩論)	4
	48	ドイツ語特殊研究(ドイツ現代言語論)	4
	49	スペイン語特殊研究	4
	50	スペイン語特殊研究演習	8
	51	西洋史特殊研究	4

国際文化研究科 国際文化専攻 博士後期課程

科目区分	科目番号	授業科目	単位
日本文化研究	1	古典文学特殊講義	4
	2	古典文学特殊研究指導	12
	3	近代文学特殊講義Ⅰ	4
	4	近代文学特殊研究指導Ⅰ	12
	5	近代文学特殊講義Ⅱ	4
東アジア文化研究	6	東アジア(中国)言語文化特殊講義Ⅰ	4
	7	東アジア(中国)言語文化特殊研究指導Ⅰ	12
	8	東アジア(中国)言語文化特殊講義Ⅱ	4
	9	東アジア(中国)言語文化特殊研究指導Ⅱ	12
	10	東アジア(中国)言語文化特殊講義Ⅲ	4
	11	東アジア(中国)言語文化特殊研究指導Ⅲ	12
	12	東アジア(韓国・朝鮮)言語文化特殊講義Ⅳ	4
	13	東アジア(韓国・朝鮮)言語文化特殊研究指導Ⅳ	12
	14	東アジア(韓国・朝鮮)言語文化特殊講義Ⅴ	4
	15	東アジア(韓国・朝鮮)言語文化特殊研究指導Ⅴ	12
	16	東アジア(中国)言語文化特殊講義Ⅵ	4
	17	東アジア(中国)言語文化特殊研究指導Ⅵ	12
	18	東アジア(韓国・朝鮮)言語文化特殊講義Ⅶ	4
	19	東アジア(韓国・朝鮮)言語文化特殊研究指導Ⅶ	12
	20	東アジア(中国)地域文化特殊講義Ⅰ	4
	21	東アジア(中国)地域文化特殊研究指導Ⅰ	12
	22	東アジア(韓国・朝鮮)地域文化特殊講義Ⅱ	4
	23	東アジア(韓国・朝鮮)地域文化特殊研究指導Ⅱ	12
英米文化研究	24	アメリカ文学特殊講義	4
	25	アメリカ文学特殊研究指導	12
	26	イギリス文学特殊講義	4
	27	イギリス文学特殊研究指導	12
	28	英語学特殊講義(文体論)	4
	29	英語学特殊研究指導(文体論)	12
	30	英語教育学特殊講義Ⅰ(評価論)	4
	31	英語教育学特殊研究指導Ⅰ(評価論)	12
	32	英語教育学特殊講義Ⅱ(外国語習得論)	4
	33	英語教育学特殊研究指導Ⅱ(外国語習得論)	12

社会福祉学研究科 開設科目一覧

シラバスの検索はこちら

社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程

科目区分		科目番号	授業科目	単位
主要学科目	必修科目	1	社会福祉学・福祉環境学方法論専門研究	2
	選択必修科目	2	社会福祉学専門研究	2
		3	社会福祉学専門研究演習	8
		4	高齢者保健福祉論専門研究	2
		5	高齢者保健福祉論専門研究演習	8
		6	高齢者福祉論専門研究	2
		7	高齢者福祉論専門研究演習	8
		8	障害児者福祉論専門研究	2
		9	障害児者福祉論専門研究演習	8
		10	地域福祉論専門研究	2
		11	地域福祉論専門研究演習	8
		12	障害学専門研究	2
		13	障害学専門研究演習	8
		14	児童福祉論専門研究	2
		15	児童福祉論専門研究演習	8
		16	保育学専門研究	2
		17	保育学専門研究演習	8
		18	社会保障論専門研究	2
		19	社会保障論専門研究演習	8
		20	社会福祉法制専門研究	2
		21	社会福祉法制専門研究演習	8
		22	家族社会学専門研究	2
		23	家族社会学専門研究演習	8
		24	日本社会福祉史専門研究	2
		25	日本社会福祉史専門研究演習	8
		26	西欧社会福祉史専門研究	2
		27	西欧社会福祉史専門研究演習	8
		28	地域社会専門研究	2
		29	地域社会専門研究演習	8
		30	現代人権政策論専門研究	2
		31	現代人権政策論専門研究演習	8
		32	福祉臨床と心理学専門研究	2
		33	福祉臨床と心理学専門研究演習	8
		34	ソーシャルワーク方法論専門研究	2
		35	精神保健福祉学専門研究演習	8
関連学科目	選択科目	36	社会福祉方法論専門研究	2
		37	女性福祉論専門研究	2
		38	社会福祉実習	2

社会福祉学研究科 福祉環境学専攻 修士課程

科目区分		科目番号	授業科目	単位
主要学科目	必修科目	1	社会福祉学・福祉環境学方法論専門研究	2
		2	ソーシャルワーク・リサーチ専門研究	2
		3	福祉環境学フィールドワークⅠ (水俣地域・不知火海、実地調査・ワークショップ)	2
	選択必修科目	4	環境福祉論専門研究	2
		5	環境福祉論専門研究演習	8
		6	環境法学専門研究	2
		7	環境法学専門研究演習	8
		8	環境社会論専門研究	2
		9	環境社会論専門研究演習	8
		10	生活環境論専門研究	2
		11	生活環境論専門研究演習	8
		12	環境マネジメント論専門研究	2
		13	環境マネジメント論専門研究演習	8
		14	人権社会論専門研究	2
		15	人権社会論専門研究演習	8

科目区分		科目番号	授業科目	単位
主要学科目	選択必修科目	16	社会政策専門研究	2
		17	社会政策専門研究演習	8
		18	環境生命学専門研究	2
		19	環境生命学専門研究演習	8
		20	精神保健福祉学専門研究	2
		21	精神保健福祉学専門研究演習	8
		22	ソーシャルワーク・リサーチ専門研究演習	8
		23	ライフウェルネスと健康・スポーツ心理学専門研究	2
		24	ライフウェルネスと健康・スポーツ心理学専門研究演習	8
		25	スポーツ社会学専門研究	2
		26	健康教育学専門研究	2
関連学科目	選択科目	27	福祉環境学フィールドワークⅡ(国内公害発生地域臨地研修)	2
		28	福祉環境学フィールドワークⅢ(海外公害発生地域臨地研修)	2
		29	社会調査方法論専門研究	2
		30	環境社会学専門研究	2
		31	環境経済学専門研究	2
		32	環境生態学専門研究	2
		33	開発と環境専門研究	2
		34	海外環境事情専門研究	2

社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 博士後期課程

科目区分	科目番号	授業科目	単位
	1	社会福祉学方法論高度専門研究	2
社会福祉学領域(理論と歴史)	2	社会福祉学特殊講義Ⅰ(社会福祉理論)	4
	3	社会福祉学特殊研究指導Ⅰ(社会福祉理論)	12
	4	社会福祉学特殊研究指導Ⅱ(西欧社会福祉史)	12
	5	社会福祉学特殊講義Ⅳ(障害学)	4
	6	社会福祉学特殊研究指導Ⅳ(障害学)	12
	7	社会福祉学特殊研究指導Ⅴ(精神保健福祉学)	12
	8	社会福祉学特殊研究指導Ⅵ(高齢者福祉論)	12
	9	社会福祉学特殊講義Ⅶ(地域福祉論)	4
	10	社会福祉学特殊研究指導Ⅶ(地域福祉論)	12
社会福祉政策学領域(制度と政策)	11	社会福祉政策学特殊講義Ⅰ(社会保障論)	4
	12	社会福祉政策学特殊研究指導Ⅰ(社会保障論)	12
	13	社会福祉政策学特殊講義Ⅱ(社会政策)	4
	14	社会福祉政策学特殊研究指導Ⅱ(社会政策)	12
	15	社会福祉政策学特殊研究指導Ⅲ(人権社会論)	12
	16	社会福祉政策学特殊講義Ⅳ(保育学)	4
	17	社会福祉政策学特殊研究指導Ⅳ(保育学)	12
環境福祉学領域(環境と地域)	18	環境福祉学特殊研究指導Ⅰ(環境福祉学)	12
	19	環境福祉学特殊講義Ⅱ(生活環境学)	4
	20	環境福祉学特殊研究指導Ⅱ(生活環境学)	12
	21	環境福祉学特殊研究指導Ⅳ(地域社会論)	12

Pickup 社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 博士後期課程

社会福祉学特殊研究指導Ⅰ(社会福祉理論)

社会福祉学は、個人や集団の生活困難を生み出す社会構造を解明する学であり、同時に、それに対峙しつつ生存を確保しようとする当事者の主体の営みや闘いに目を向けて、研究者自らも関わろうとする実践の学である。この演習では、受講者のテーマに基づいた博士論文の完成を目指すが、その前提として、人間疎外、人権侵害、経済的剥奪や周縁化の仕組みについての理論(隣接領域をも含む)を緻密に検討し、体系的に整理する。さらに、生きることについての宗教・哲学・理論の研究も行う。その土台の上に、専門研究における自分の研究の位置づけとオリジナリティを明確に意識した論文を作成し、最終的に学界に寄与するような完成度の高い論文を公刊することを目指す。